

こどもの感染症シリーズ③

プール熱ってなに？

プール熱とは、「咽頭結膜熱」のことで、「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱（プール熱）」を「こどもの三大夏かぜ」と呼ばれたりもしています。

なぜプール熱というかというと、プールで感染することが多いためプール熱と言われています。発熱、のどの痛み、目の充血など症状を伴う小児の急性ウイルス性感染症で、数種類の型のアデノウイルスが原因です。アデノウイルスには、67種類以上の型があり、様々な感染症を起こしますが、プール熱を起こすアデノウイルスは、3型、4型、7型が主な原因となります。

基本的に6月～8月の夏に流行する感染症です。

新型コロナウイルス感染症と同様、5類感染症に分類されます。



症状は？

感染してから5～7日の症状の出ない期間（潜伏期間）をおいて、発熱、頭痛、食欲がない、体がだるい、のどの痛み、目の充血、目の痛み、まぶしい、涙が出る、めやにの症状が3～5日程度続きます。目の症状は、通常片方から始まり、そのあと、もう片方に症状が出ます。そのあと症状はなくなります。

ただし、生後14日以内の新生児は重症化する場合があるので注意が必要です。

また、アデノウイルス7型の感染症の場合、心肺機能、免疫機能等に基礎疾患のある人、乳幼児、老人では重症化する可能性があるため注意が必要です。



感染経路は？

咳やくしゃみなどの飛沫によって感染する「飛沫感染」と、めやになどが感染源になるため、タオルの共用や手指を介した「接触感染」によって感染します。また、プールの水が目に入ることで感染が起こります。

検査方法は？

のどの粘膜を綿棒でこすり取り、検査します。15分程度で結果が出ます。



消毒方法は？

アルコールが効きにくいとされています。そのため、こまめにうがいと水と石鹸でよく手を洗うことが重要です。

そのほかは、塩素系漂白剤に使われている次亜塩素酸ナトリウムを薄めて使うことも有効ですが、手指の消毒には不向きですのでご注意ください。

また、感染者とのタオル等の共用は避けましょう。

治療は？

彦根休日急病診療所通信V○1.1で紹介した「かぜには抗生物質（抗菌薬）は効かない？」に書いた通り、咽頭結膜熱は、「手足口病」「ヘルパンギーナ」と同様ウイルス性の感染症のため、「抗生物質（抗菌薬）」は効きません。特別な治療法はなく、対症療法となります。基本的には、発熱と口の中の痛みなどがあるので、解熱・鎮痛剤で対処することが多くなります。中には、食事や水分摂取ができなくなり脱水症状が出ることもあるため、解熱・鎮痛剤などを使用し水分摂取を心がけましょう。

学校は休むの？

主な症状がなくなってから、2日間経過するまで出席停止とされています。ただし、病状により伝染の恐れがないと認められる場合はこの限りではないとされています。

（参考）厚生労働省 咽頭結膜熱について

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou17/01.html>

国立感染症研究所 咽頭結膜熱とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/323-pcf-intro.html>